

A photograph of a stack of old, worn books on the left. In the foreground, a pair of black-rimmed glasses with a red strap lies on a dark surface. To the right, an open book with yellowed pages is visible, along with a white cup of coffee on a matching saucer. The background is a blurred bookshelf. The text '読者による文学賞' is overlaid in white on a semi-transparent dark band across the middle of the image.

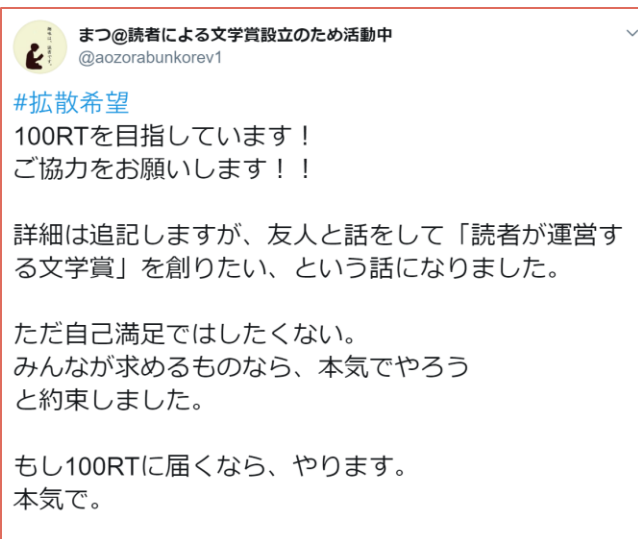
# 読者による文学賞

# 読者による文学賞 とは



受け手である「読者」が  
**読みたい・広めたい**  
という気持ちで選考を行う

**読者が運営する**文学賞です。



構想をツイートしたところ100回のRTを  
予想したところ、約400回近いツイート。

IMP（表示回数）は**6万回以上！**





## 既存の文学賞の課題

- ・ 出版社主催の場合、主催社から発表された作品がどうしても優先されてしまう。

(例) 芥川賞の場合、直近10作品の内5作品が主催社の発表作品

- ・ 他組織の場合は、発掘というよりも有名作品の追認傾向が強くなる

受賞作には注目が集まるが、知名度のある作家の作品に票が集まったり、既に売れている本を追認したりといった傾向もかねて指摘されている。第1回から実行委員を務める三省堂書店の内田剛氏は「(最終候補から外れた) 11位以下をもっと届けたい。本当に面白い本がここにある」と語る。近年は賞狙いと思われる一次投票開始間際の刊行も増え、読み切れない状態だという。

引用：日経新聞 (2019/4/23)





## 文学賞の想い

「売りたいもの」、「有名なもの」が注目されるのではなく

純粹に「**良いもの**」が注目される世の中にしたい



## 実現のために

受け手自身が、自分たちで「良いもの」を探していく市場文化をつくる。

そのためには、世間から注目されていない作品のなかにも優れた作品があることを知らなければいけない。

この文学賞で、その一例を示したい！





## 今後のスケジュール

12月27日～1月7日 一次選考

ネットから推薦したい本を募ります。

1月10日～2月14日 二次選考

各担当の選考委員が作品を読み、  
1作品を推薦します。

2月15日～3月31日 最終選考

挙げられた推薦作品を選考します。

**4月27日**

**発表！**

